朝日新聞　1992年（平成4年）1月18日

通じなかった「謝罪」頼み

従軍慰安婦問題

日本政府認識に甘さ

首相「厳しい訪問でした」

韓国を公式訪問した宮沢首相は十六、十七両日、盧泰愚大統領との二回にわたる首脳会談で「アジア・太平洋地域の平和と安定」をめざす協力強化を確認した。だが、ソウルの街では、従軍慰安婦問題をはじめ両国間の戦後処理の「完全清算」を求めるデモや集会が連日続いた。宮沢首相の「謝罪」の言葉は韓国人の胸にどう響いたのか。「未来志向」をうたう日韓関係に突き刺さる「トゲ」はどうしたら抜けるのだろうか。

（ソウル＝土屋弘、小北清人）

宮沢首相が演説する国会議事堂に向かおうと、警官隊と激しくもみ合う「太平洋戦争犠牲者遺族会」など各団体の会員＝17日午後、ソウルで、小北写す

時時刻刻

怒り

十七日、宮沢首相が演説したソウル・汝矣島の国会議事堂。その約五百㍍東の路上で、「太平洋戦争犠牲者遺族会」「韓国挺身隊問題対策協議会」など首相の謝罪と補償を求める団体の数百人が抗議デモを始めたのは、首相演説を前にした午後一時。「宮沢は帰れ」「日本は国際慣行に従い賠償せよ」などと書かれた横断幕やプラカードが揺れる。日の丸の旗が焼かれた。警官隊が立ちふさがり、押し合いが続いた。

首相の演説を聞いた「韓国挺身隊問題対策協議会」の共同代表、尹貞玉さんは「本当に申し訳ないと思うのなら、なぜ、補償などの具体的な約束を言わないのですか。到底、謝罪として受けとれません」。

韓国人被爆者、サハリン残留韓国人の問題についても、改めて日本政府の責任を問う声が強まっている。

「人道主義の国だと公言する日本が、戦後処理問題について、被害者団体の実情を知り、誠意をもって清算することを要求する」との声明を九日、太平洋戦争犠牲者遺族会、韓国原爆被害者協会、中ソ離散家族会の三団体が発表した。

韓国の被爆者に対し、日本政府は四十億円の救護基金の支給を決め、うち十七億円を昨年末に送った。だが、被害者協会は別に「二十三億㌆」の補償を求めている。「我々が言い続けてきたのは、せめて日本の被爆者と同じ援助措置をしてくれということなんです」と辛泳洙会長はいう。

民主化で噴出

韓国内で日本の戦後処理に対して不満が噴き出したのは、盧政権下で民主化がスタートしてからだ。

昨年十二月、太平洋戦争犠牲者遺族会会員らが日本政府に対する補償請求訴訟を東京地裁に起こすなど前後して、元従軍慰安婦が相次いで名乗り出て、もう十人を超した。「いま、訴えねば、恨みを晴らせない」との思いからだ。

その一方、韓国政府は、日本政府と同じように日韓条約で戦後処理は「清算ずみ」との態度をとってきた。が、同条約交渉にあたった李東元・元外相は「個人の被害補償の範囲まで清算したわけでない」という。

韓国の法曹関係者らも「条約交渉で、サハリンの残留韓国人や原爆被害者、慰安婦らの問題が抜け落ちていた」と指摘。とくに、元慰安婦の訴えによって「植民地支配の不法性が立証された。日韓の国家関係でも戦後処理が解決したと見るのは難しい」との声さえ出ている。

宮沢首相は今回の訪韓で、国連平和維持活動（PKO）協力法案に関連して「日本は二度と軍事大国にならない」と約束した。だが、中ソ離散家族会の李斗勲会長は「日本が進んで過去の問題を解決しなければ、いくら国際貢献のためといっても、自衛隊の海外派遣に対して我々の不安は消えない」という。

誤算

「なかなか厳しい訪問でした」。十七日午後、首相は同行記者団との懇談で、こう漏らした。「従軍慰安婦問題という『過去』と、対日貿易赤字という『現在』が絡まり、韓国内の空気は予想以上にトゲトゲしかった」（同行筋）というのが率直な感想だったようだ。

日本政府が従軍慰安婦問題に関心を払うようになったのは昨年十二月初め、元慰安婦が補償を求める提訴に踏み切った前後からだ。当初は加藤官房長官が記者会見で「従軍慰安婦」と「強制連行労働者」を取り違えるような状態だった。

韓国内の関心の高まりが伝わるにつれ、首相周辺も「このまま放置したら大変な問題になる」。だが、日米首脳会談の対応に追われ、本格的な取り組みは年明けにずれ込んだ。

首相がようやく「謝罪」を決めたのは、訪韓の数日前。「『未来』に向け、避けて通れない関門」（側近）との思いからだ。外務省からは「韓国がまず求めているのは謝罪」という情報も伝えられ、「謝罪」によってひとまずしのげる、との読みもあったようだ。韓国側によると、首相は十七日の会談で「謝罪」「反省」に八回も言及したという。

だが、問題は決着したわけではない。盧大統領は真相究明と「しかるべき措置」を求めた。日本側は「大統領の期待とは、調査結果を公にし、韓国側に連絡すること、と理解している」（政府筋）との受け止め方で、また、認識の甘さがうかがえる。

「補償を」の声 高める韓国人